



ずっと発信し、行政に対し要望し続けてきた「タクシー運賃の原価の見直し」と、「コロナ禍で電車・バスも動いていない深夜に人がいなくてもタクシーを動かしていたのは誰だったのか」と訴え続けたのは事業者団体ではなく労働組合です。

確かに事業者は存続が優先されますから「補助金申請」等に躍起になるのもわかります。特に中小規模事業者ではこうした制度が無ければ、その多くが確実に事業を諦めていたかも知れません。

それでもこの業界の労働組合は、地道にそれの方法や活動を通じて特殊な雇用形態で運転業務をおこなっているエッセンシャルワーカーへの直接的な補償を求めてきました。そうした視点で見れば今回の改定は旅客自動車産業に従事する労働者の労働環境について社会の眼が向けられ、国の会議で議論のテーブルに上がり、「今回の料金値上げをしっかりと労働者の待遇改善に向けること」というある意味条件付き“であったことは「労働環境改善への新しい歩を踏み出すことができた”と捉える事が出来ますので、今後ハイヤー事業やバス事業にも大きな影響が出る改定です。

まさに労働者の声が社会に届いた具体的な例として働く皆さんが喜んでいい内容だと思います。

ただし、ここで満足するわけではなく公共交通や移動産業を担う労働者の働く環境をもっと向上させていく事が我々の使命でもありますので、より影響力・発言力を高めていくためにもここに集う組合員の皆さん理解無くしては前進もままなりません。

もう一つ、労働組合としても大事な問題で、昨年もここでお話ししましたが業界の将来に大きな影響を与える「改善基準告示」の見直し<sup>②</sup>労働時間の短縮などについては、いよいよ具体的な数値が示されてとりあえずは急激な時間短縮となりませんでしたが逆に将来的にはすべての仕事（特殊職業は除く）が時間外・年720時間以内、そして最終的には労働基準法の原則である年間360時間以内を目指す方向がハッキリと示されてしまったのも事実です。

この問題では国際グループでも特にハイヤー事業が大きな転換を強いられることとなりましたが、「残業に依存しない賃金体系」は本来、企業も労働組合も目指すべき方向ですのでこのような労働時間の短縮に向けては「新たな賃金や働き方」の在り方と「収益増による適正な分配方法」を具体的に進めていかなければならず、タクシー、バスとともにそれぞれが労使最優先の課題として新しい賃金やダイヤ的具体案を作成し、検証しなければならない段階に入りました。

以前のように一方的に会社が考える「働くかせ

方」を待つていいのではなく、

国際グループ

に対する「1

00年企業と

は言え、いつま

でも自分たち

の価値観で判

断していくは

手遅れになる

と古い慣習か

ら脱皮しなけ

ればならない

ことをしっか

りと理解して

もらひながら

ればなりません。

の縮小によって、先ほども申しましたが我々に

とて最も重要な交渉力“を支える「組織の結

束力」を低下させるわけにはいきません。した

がって、緊縮財政については引き続き、出来得る

限り取り組むと同時に「組織力の維持・強

化」、「役員をはじめとした研修・学修機会の創

出」「組合員の皆さん参加しやすい行事」な

どについてはしっかりと予算対応し、これまで選

挙等を通じてご理解いただいた上で参りました「運

動の継続」を目指す「予算案」となっておりま

すので、そういう点をご理解いただきご審議

いただきたいと思っております。

結びになりますが、コロナによってこの3年間

で多くの仲間がこの会社を去っています。非常

に残念ではありますがそれでも我々は前を向い

て進まなければなりません。この10月で組合員

数は労供含め5,398名と日本交通の労組よ

り約800人多い「業界最大の労働組合」には

変わりありません。

われわれの生活の基本となる労働条件・労働

環境の変化に対して、ただ「意見を出す」だけ

ではなく主体的に関わっていくためには組合と

しての結束力は不可欠であり、結束力・团结力

の高さが使用者・企業に対する拮抗力や発言

力を強めることになります。

同時に、我々の生活に直結する「労働時間の

短縮」のような社会的な流れは企業内の労使

だけではなく主導的に関わっていくためには組合と

しての結束力は不可欠であり、結束力・团结力

の高さが使用者・企業に対する拮抗力や発言

力を強めることになります。

労働組合も業界を代表し、労働組合も業界最大

であることとは社会的責任もそれだけ大きいと

いうことで皆さんにとって日々の業務の中で

窮屈に感じることもあると思います。

労働組合も業界を代表し、労働組合も業界最大

であることとは社会的責任もそれだけ大きいと

いうことで皆さんにとって日々の業務の中で

窮屈に感じることもあると思います。

この時代で最も重要な労働組合の取り組み

だと考えています。



第29期 本部役員





## 団体戦は台東支部が4大会ぶり4度目の優勝!

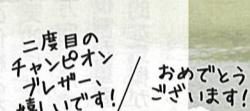
# 第40回ゴルフ大会



ホスピタリティやスキルを通じて様々な学べる非常に貴重な機会でもあります。コロナ禍の影響で屋内の行事や会議は制限のかかる部分もありますが、屋外の行事から順次コロナ前の形に戻して行きたいと考えています。仕事の面でもまだまだ厳しい点がありますが、業界の中でしっかりと足元を固め、これからも『選ばれる会社』となるように労働組合としても精一杯努力していきたいと考えておりますので、労働組合としての力強い団結力を示して行くためにも、組合行事にぜひ友人や仲間を誘って参加いただきたいと思いますので、今後もご理解とご協力をお願いします。」と挨拶がありました。

競技の結果は、団体戦で「台東支部」が王座を奪還し4大会ぶり4度目となる優勝の栄冠に輝き、準優勝には「丸の内支部」が、第3位には「羽田支部」がそれぞれ入賞しました。新ペリア方式で競われる個人戦では、接戦を制した「東雲支部の西村祐哉選手」が6大会ぶり2度目の優勝を飾り、久しぶりに袖を通す「栄光のチャンピオンプレザー」を嬉しそうに羽織る姿が印象的でした。準優勝は「吉祥寺支部の田村等選手」が、第3位には「三鷹支部の鳩山和博選手」がそれぞれ入賞となりました。

参加された選手の皆さん、また運営委員の皆さん早朝から大変お疲れ様でした。来年もより多くの参加をお待ちしています。



2022年9月26日(月)に茨城県笠間市「スターツ笠間ゴルフ倶楽部」において、10支部98名(労供含む)の参加により、第40回ゴルフ大会を開催しました。本大会はコロナ禍の影響で約2年ぶりの開催となりましたが、早朝にもかかわらず、開場時間前から開催を心待ちにしていた

選手が続々と集まっていました。澄み渡る秋晴れの下、競技は予定どおり午前8:00にOUT1番・6番、IN10番・15番からのショットガン方式で一斉にスタートし、鋭く伸びるティーショットには「ナイシショット!」、「バンカーや林から一発で出れば『ナイスアウト!』とプレイヤー同士、マナー良く互いのプレイを称え合いながらラウンドを楽しむと同時に、仲間との親睦を深めている様子が各組で見られました。

終始好天に恵まれた本大会では、5大会ぶりにクラブハウス前の広場にレッドカーペットを敷いて表彰式を行うことができました。

冒頭、北里中央執行委員長より「本日は大変お疲れ様でした。日本でも有数の名門ゴルフ場である『スターツ笠間ゴルフ倶楽部』において、このような良いコンディションでプレイできただけでなく、レベルの高さで有名なキヤディさんの



### 個人戦

**準優勝** 田村等選手(吉祥寺)  
OUT 50 IN 51  
GROSS 101  
HDCP 30.0  
NET 71.0

**優勝** 西村祐哉選手(東雲)  
OUT 43 IN 39  
GROSS 82  
HDCP 12.0  
NET 70.0

**第三位** 鳩山和博選手(三鷹)  
OUT 42 IN 40  
GROSS 82  
HDCP 10.8  
NET 71.2



セミナーに先立ち、北里中央執行委員長による挨拶



(株)kmGオートアシスト管理課より、保険サービスについての様々な説明がありました。

皆さんは入社前後の説明会や研修のなかで、「労働組合」のことを少しは聞いたと思います。会社は私たち国際労働組合と労働組合法という法律に則り、「ユニオンショップ協定」を結んでいます。なじみのない単語だと思いますが、「社員は組合に加入しなければならない」という取り決めであり、この取り決めにより、今日お集りの皆さんは国際労働組合の一員となっています。私たちが働いている旅客自動車産業やハイタクバス産業にも一般企業同様に多くの労働組合がありますが、国際労働組合は東京のほかに神奈川、大阪にも拠点を持つ企業内労働組合であります。日本最大の労働組合となっています。

会社が、国際労働組合の「kmブランド」の価値向上が労働条件向上のための絶対必要条件だとの永年に亘る主張に応える形で、「ホ



中央労働金庫霞が関支店より、「ろうきん」活用術のお話をいただきました。

セミナー前半は、新組合員用に作成した「広がる人の輪」に基づき、国際労働組合の歴史や組織機構、福利共済制度などについて組織部長より説明があり、続いて組合の年間行



組合の歴史をはじめ諸制度や年間行事など、業界内日本最大の労働組合を活用するヒントが沢山ありました。

# 一人一人がkmブランドの価値向上と、業界変革の力に! 新組合員セミナー

スピーティードライビングkmをモットーとした企業理念を発表したことは、労働組合として大いに評価しており、様々な会社施策にして

全面的に協力することを表明しています。

一方、組合では皆さんの現場にいる支部長を交え様々な事柄を検討し、中央委員会の決議を経て、会社に提起提言書を提出して

我々が考える業務の在り方の実現に向けた協議や交渉を日常的に行っています。具体的な例を挙げますと、現在の勤務ダイヤや「ホ

スピタリティーブック」、制服に至るまで、変更および作成のすべてに深くかかわっているだけではなく、今では全国のタクシーであたりまえとなっている「黒塗りタクシー」やカーナビゲーションシステム、またカード決済機、GPS無線配車、km個人タクシー制度など、これまですべて国際労働組合からの提起提言によって実現しています。

また私は「km」は会社の名前ですが、「kmブランド」は会社が作ったものではない」と断言しています。100年を超える歴史の中で組合員、「一人一人が日々の業務の中で積み上げてきたものが、kmブランド」です。今現在もここにいる皆さんが「kmブランド」そのものであり、「一人一人が価値を上げる」努力と意気込みを持っていただきため、職場環境の整備・改善を行なうのが国際労働組合としての活動責任だと思っています。そして、仕事を通じて業界を変えることももちろんですが、労働組合の活動を通じて業界の社会的地位の向上を実現していくため、職場環境の整備・改善を行なうのが国際労働組合としての活動責任だと思っています。そして、仕事を通じて業界を変えることももちろんですが、労働組合役員が出てくることを願っております。

出席された新組合員の皆さん、また引率された支部役員の皆さん大変お疲れ様でした。これから国際労働組合の仲間として「ゆとり豊かさ」の実現を目指し、共に頑張りましょう。

本セミナーにはキャリア入社だけではなく、新卒で入社された組合員も多数出席し、セミナー後半は各部門に分かれて開催され、それぞれの部門の現状やこれから取り組みについての説明が行われました。

セミナー後半は各部門に分かれて開催され、それぞれの部門の現状やこれから取り組みについての説明が行われました。

セミナー後半は各部門に分かれて開催され、それぞれの部門の現状やこれから取り組みについての説明が行われました。

セミナー後半は各部門に分かれて開催され、それぞれの部門の現状やこれから取り組みについての説明が行われました。

セミナー後半は各部門に分かれて開催され、それぞれの部門の現状やこれから取り組みについての説明が行われました。